

提案1：行方市の特産品にブランド力をつける

消費者から見たら行方の農産物の印象は薄い。ブランド力をつけて付加価値を高めることが必要。付加価値の高い農産物を生産し、ある程度の収入が見込めれば、後継者も集まってくると考えられる。

行政の取組

- 行方市の農作物としてどのように特色を出していくのかを考える
- 新種の農作物開発
- ブランド力をつけるための国際規格を取るべく調査する
- ブランド化の目的を明確化する
- 選挙の仕組みは行政の得意分野なので、特産物の総選挙の機会を作る
- 市外に向けて PR を積極的に行う
- 大学や企業、JA と連携する
- なめがたブランドの認証制度の制定及び認証された製品の支援体制の確立
- 市内外での行方産品の宣伝活動をおこなう。
- HP や SNS などによる情報の拡散を図る。
- 小さなマルシェを定期的に開催。農産物や食、観光、健康など様々な分野のマルシェをおこない、地域住民と買い物客や観光客へ口コミでの宣伝活動を行える環境をつくる。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの農家が個別に研究していく ・ マーケティングを考えて特産品を選ぶ ・ 行方の特産物を市民総選挙で（AKB 総選挙みたいに）投票して選ぶ ・ 作り手の農家がポスターを作りアピールする ・ 難しい議論よりも市民が同じ方向を向ける機会が重要 ・ 口コミで宣伝する ・ 調理方法について研究，発信する ・ 品質か体験を売りにする ・ 品質が高い産品を目指した生産活動 ・ 行方産品を選んで食すること。地産地消の家庭での実践。 ・ 地元以外の知り合いなどへ口コミでの宣伝。 ・ 人と人の集う場所に積極的に参加する。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の農家で特産品を考え、同意見を持った人たちで協力する ・ 特産物の総選挙を皆で話題にする ・ 口コミで宣伝する ・ 地産地消をめざす ・ 生産・販売のための組織として NPO を立ち上げる ・ 行方市の特産品を積極的に PR する ・ 生産者が調理方法について研究，発信する ・ 市民の意識を同じ方向に向ける ・ 地元 PR の強化 ・ 継続的な宣伝活動 ・ 農業にまつわる年中行事を地域で支える ・ 豊作祈願する祭りなどを地域で絶やさぬ努力が必要。 ・ 定期的な市や集う場所へ新鮮な野菜や食を提供する。
--	---

提案2：農業の担い手となる I ターン者、U ターン者を増やす（後継者育成）

地域に溶け込み地域で不安なく生活できるための仕組みづくりなど、行方市で農業を始めたい人たちに対して支援することで、I ターン者、U ターン者を増やす。

行政の取組

- 行方市の魅力を PR し、イメージアップをはかる
- I ターン者、U ターン者への支援策を考える

- 移住した後に地域との調整を行う
- 行方市に移住する人への税優遇策の検討
- 移住定住者に対して、気持ちよく過ごしてもらえるような環境づくりの確立
- 作物の調査選定等実証事業の実施
- 大学キャンパス誘致のための学校訪問、優遇措置の整理
- 担い手育成のための奨学金制度の創設・周知
- 田舎暮らしに憧れる新規就農者を対象に空き家のマッチングや改装資金の補助を行う

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人を立ち上げる ・ 実証事業用作物の作付協力 ・ 大学誘致への理解 ・ 制度の活用 ・ 移住者や若者に親切的な地域づくり ・ 空き家を貸す、販売する ・ 農家を完全にやめるのではなく、兼業農家や家庭菜園として農業を少しでも残し、土いじりや育てる楽しみを家庭の中でも共有し、次の世代へ伝える。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域として新規住民のサポート体制の確立 ・ 民間（農業生産グループ）への受け入れの要請 ・ 移住者が居住できるシェアハウスを建てる ・ 地区別に募集コンセプトを作る ・ 行政が行う実証事業への協力（J A・出荷団体等） ・ 大学誘致への理解 ・ Uターン者への就労支援 ・ 後継者団体等でおしゃれな農業をPR ・ 団体で、若者向けのおしゃれな『農フェス』の開催 ・ 農業の良いところをPRする ・ なめがたファーマーズヴィレッジとの連携による若手の農業への関心を地域になじませるイベントや体験を進めること、地元との距離感を縮める
--	---

提案3：農地の集約化、マッチングを行う

耕作放棄地を有効活用するために、農地を集約化し専業農家に作付けをしてもらうことや農業を始めたい人のマッチングなどを行う。

行政の取組

- 耕作放棄している人のリストアップ
- 耕作放棄をしている農家と、集約化や貸し出しの相談をする
- 農地を持て余している人と農業を始めたい人が話し合えるプラットフォームを作る
- 耕作放棄地を集約化し、専業農家に貸し出す
- 土地改良区について、行政改革を行う
- 耕作放棄地を再生する作業を支援する。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地を貸し出す ・ 後継者のいない農家を紹介する ・ NPO 法人を設立して手伝う ・ 耕作者が集約化に対して積極的に協力する 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地の持ち主に貸し出しの意向を確認する ・ 地域として新規住民のサポート体制の確立 ・ 民間（農業生産グループ）への受け入れの要請 ・ 移住者が居住できるシェアハウスを建てる ・ 隣地の農地所有者同士が集約化に協力する ・ 土地改良区の区画を調整し、耕作が容易にできるよう見直すとともに、集約化をはかる ・ 地域で耕作放棄地の状況を調べる。 ・ 地域が共同で管理する。
---	---

提案4：行方市の観光資源の再発見

行方市は古くから歴史があり、農業体験以外の観光も他地域と差別化を図ることが可能。様々な魅力を再発見し、観光資源をトータルコーディネートして線をつなぎ、魅力的な観光プランとしてPRする。

行政の取組

- 広域的に周辺自治体と組み、観光地を作り上げる
- 大場家の保存を観光につなげる
- 市民から提案された観光地をPRする
- 観光資源の資料等を提供する
- フットパスを充実させる
- 児童や生徒にこの地域について理解を深めてもらえるよう、学校で行方についての授業を実施し郷土愛をもってもらう
- 観光ボランティアが増えるように、勉強会等を開催する
- スマートフォン（既存インターネットサービス（グーグルマップなど））を利用した仕組みで観光スポットへ案内できるようにする。併せて、公共無線LANを整備する。
- スマートフォンを利用したAR技術（拡張現実）により、観光スポットを説明案内する。
- レジャー関連企業（株式会社モンベル）を誘致する。
- 宿泊施設の開業支援制度、規制緩和制度を導入。

個人でできること

- ・ NPO法人を設立して手伝う
- ・ 景勝地の保全活動に参加する
- ・ 観光地になりそうな場所を考え、活用できそうなものを行政に提案する
- ・ 住民全員が観光資源に興味を持つ、機会をもつ
- ・ 行方市の歴史・文化を知り、観光客へ案内できるようにする。
- ・ 地元でレジャーを楽しむ。
- ・ 既存インターネットサービス（グーグルマップなど）へ投稿する。
- ・ 口コミ・ブログ・InstagramやTwitterなどで多くの人に知ってもらう。

地域・民間にできること

- ・ 滞在型観光としての農業体験のために、農地の提供、農作業のアドバイス（グリーンツーリズム）
- ・ 景勝地の保全活動を行う
- ・ 観光資源の発掘や他団体との連携を行う
- ・ 高齢者へ過去の地域のことを聞き、資料として残すとともにインターネットへ掲示する。
- ・ 体力のある企業が宿泊施設を開設運営。
- ・ レジャー専門店を開業又は誘致する。
- ・ 観光スポットにて体験型謎解きゲームを実施（人気アニメやゲームなどとコラボ）。
- ・ 女性（ママ）や子どもを惹きつける、気軽に行けて何度も行きたくなる施設？遊び場を作る。
- ・ 若い女性を惹きつける、美と食。お洒落なカフェ、エステもできる入浴施設等。※託児所付き。
- ・ パワースポットの発見と効果の検証。

提案5：廃校を地域活動の拠点や宿泊施設などとして再活用する（移住者を受け入れる）

地域の拠点となってきた学校施設は、廃校後にその特性を活かして地域活動の発展のために再活用する。その一例として、行方市は宿泊施設が不足し、日帰り客しか期待できないため、廃校を宿泊施設として再活用することで滞在型の観光を推進することなどが考えられる。

行政の取組

- 廃校を宿泊施設として活用する
- 用途について公募する
- 学校跡地を活用した、モデルタウンの整備（造成から販売まで、受注事業者が実施）

● 女性向けの情報発信（おしゃれスポット・おいしい情報等）

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人が主役となり民泊、民宿を促進する ・ 建設関連の教育機関の設置 ・ 耐震補強について廃校を活用して実験する ・ 移住者と積極的にコミュニケーションを図る。 ・ 現代の女性の現状を理解する 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今ある施設を使い民泊、民宿の場所を確保する ・ 移住者を、地域の行事等に参加させる。（地域の受け入れ） ・ 女性の働きやすい職場環境の整備 ・ 女性が興味を持つおしゃれなお店を経営（カフェ・サロン等）
---	--

提案6：なめがたファーマーズビレッジを積極的に活用する

なめがたファーマーズビレッジには、サツマイモのブランド化や観光客の誘致の推進力となる期待の声寄せられた一方で、全国的には多くの農業体験施設がうまくいっていない現実もあるため市民全体で盛り上げていく必要があるとの意見があった。

行政の取組

- ファーマーズビレッジの「強み」を活かして、行方市の対外的な活動の際に積極的に活用する
- ファーマーズビレッジ周辺の観光を一体的に盛り上げていく
- 小中学生の職業体験として活用する
- 行政と施設共同で、収穫祭のようなイベントを企画する。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは自分で行ってみて、感想を発信する ・ 友人、知人に紹介する 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会社の研修の場として活用する ・ 幼稚園の遠足で訪れる ・ 地域で盛り上げていく ・ NPO 法人霞ヶ浦アカデミーの事業と連携を行う ・ 来場者にリピーターになってもらえるよう、おもてなしの気持ちで対応する ・ 施設内にVIPファームがあるが、著名人のサイトにリンクを貼らせてもらうなど、ブログ等で施設の様子を書いてもらう。 ・ 旅行会社に働きかけ、施設をコースに組み込んだ観光旅行を企画する。 ・ 東京ウォーカーで一度紹介されたが、定期的に紹介されるように、各出版社に働きかける。（ぴあ、ことりっぷ等） ・ 施設やオンラインショップの他、道の駅等でも商品を販売する。
---	---

提案7：空き家や耕作放棄地を再活用した滞在型観光を推進する

新規就農を希望する人が、まずは体験できるよう3ヶ月～6ヶ月農業に従事してもらう「滞在型」、都内住民の週末に農業をしたいという希望を叶えた「週末型」、小・中学生が利用する「教育研修型」などニーズにあわせた農業体験を行い観光の推進力とする。

行政の取組

- 特区を設け、農家の空き家を民宿に活用しやすくする
- 民泊、民宿用の施設整備のノウハウ指導や助成
- 所有者とのマッチングや税制優遇
- 現在交流のある市町村に積極的にアプローチする
- 空き家の実態調査を実施
- 補助事業の導入

個人でできること	地域・民間にできること
<ul style="list-style-type: none">・ 近所の空き家を調査する・ 都市と交流を行う・ 積極的に設置に向け協力する	<ul style="list-style-type: none">・ 今ある施設を民泊、民宿の場所として活用する・ ミニ農園等の提供・ 施設のリニューアル・リノベーションの設計提案・ 地域の人材の活用，農業指導・ 古民家カフェやシェアハウスとして整備する

提案8：主に製造業において事業所の求人と求職者のマッチングを図る（企業誘致）

製造業の担い手不足は行方市の課題。製造業のツライ、キツイというネガティブなイメージの払拭や外国人労働者の受け入れのための環境整備などを行い、事業所の求人と求職者のマッチングを図る。

行政の取組

- 求職者に仕事を紹介する
- 外国人に対する政策の緩和
- 入国管理や難民に関する規制の緩和
- 都内で積極的に募集を行う
- 窓口となってマッチングを図る
- 話し合いの場（セミナー開催など）を提供する。
- 市民が情報を収集するためのインフラ整備（公共無線 LAN など）。
- 本人、配偶者及び子供2人の標準的家庭の「生活賃金」についてガイドラインを作り、雇用主へ理解を得る。
- 他自治体を上回る税制優遇措置（潮来市は資産税減免が5年である）
- 企業ニーズに見合ったインフラ整備を進める。
- 企業誘致に貢献した人へのインセンティブ制度創設。
- 地域の活性化につながる店舗開設等に対する支援を行なう。
- 金融機関等と連携して起業支援講座を実施する。
- 市内で働く若者を紹介して、地元で働くことの魅力を伝える。
- 市内で就職した場合、奨学金の返還を助成する。

個人でできること	地域・民間にできること
<ul style="list-style-type: none">・ どんな仕事でもやってみる・ 住む場所（土地）を探す・ 空き地の情報について提供する・ 仕事がないという固定観念を変えて、情報を収集研究し、家族を養える資力（所得額）を得るための努力をする。・ 個人のコンネクションで知り合いの企業幹部	<ul style="list-style-type: none">・ 入ってきた新人に丁寧に教える・ 求職者と仕事のマッチングをする・ 母子家庭などを含め、女性にとって働きやすい職場環境にする・ 銀行や建設会社でプランを検討する・ 定住者への地域の受け入れ体制の整備・ 地域コミュニティーのなかで、生活に困っている人への仕

<p>などに働きかけをする。</p>	<p>事に関する情報提供などの支援を定期的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雇い主は給与体系を見直し、従業員が一般的に家族を養うことができる賃金（生活賃金）を支給することで労働力を確保する。十分な対価が与えられれば従業員の士気が上がり生産力も向上する。 ・ 下請けの中小企業と連携できる（競合しない）企業へ働きかけをす ・ リクナビ、マイナビなど就職活動中の若者が利用する求人情報サイトに掲載する。 ・ インターンシップを受け入れる。 ・ 合同就職説明会に参加する。
--------------------	---

◎その他

- ・ 入浴施設を民間に経営させるべき
- ・ 高校にこれまでなかった地域の特性を活かした学科を設置すべき
- ・ バイオエネルギーの推進をはかる
- ・ Iターンしてくれた方を対象に、優遇措置を行う
- ・ 定住化促進条例の見直し
⇒年齢制限はよいが、既婚等の条件について緩和
- ・ 何をするにも市民の目線を同じ方向に向けて取り組むことが重要であるため、一体感が持てて話題性のある農産物総選挙が早めに実施できるように検討して欲しい。注目されれば、人を呼び込むことができる。人が訪れた際は、おもてなしの心で対応する。
- ・ 婚活に対して年齢制限を設けないで欲しい。
- ・ すぐに移住定住ではなく行方に来てもらうことからはじめ、リピーターになってもらう。
- ・ これまで歴史関連の PR 事業を多数行ってきたが、行方市の歴史・文化に興味を持つ人は多くなかった。単なる歴史案内、史跡めぐりだけでは観光客を見込めないのは明白である。一方、湖周辺のレジャーは、周辺観光スポットを周遊できるサイクリングコースに人気があり、水郷筑波サイクリングコース（仮/県主導）などの整備が進んでいることや多種多様の魚釣りも盛んであること、休日には湖畔で散歩やバーベキューを楽しむ人も見受けられることから、余暇を楽しむ基本的な環境（地の利）は揃っているといえる。
このことから、行方観光に必要なのは、レジャー専門店（アウトドアブランド店等）と観光・宿泊の複合商業施設ではないかと考える。首都圏だからこそ「滞在型リゾート」としても十分にやっていけないのではないか。-カジノ特区なども視野に。
また、「刀」を“擬人化”したゲームがもとで「日本刀ブーム」が起きている。歴女（れきじょ）と呼ばれる方々もアニメやゲームなどでキャラクター化された歴史上の人物へのオタク的な嗜好によりブームとなったと言われる。行方市域を舞台とした物語を現代風に作りニーズに合った仕掛けを作ること、もしくは、既存の人気キャラクターを起用して定着させることも考えられる。
- ・ 自主財源の確保
(行政の取り組み)
 - ①市民の平均所得を向上させる仕組みを作る。規制緩和、支援制度など。
 - ②不動産価値が上がるように、都市計画などを見直し、インフラ整備を進める。(H27 地価公示価格は県内最下位)
 - ③大企業の誘致を促進する。

- ④不公平にならないよう適正課税を厳格に行う。
- ⑤納税環境を整備するとともに滞納整理の更なる強化。
- ⑥公債権管理の一元化により効率的整理を行う。

(個人として)

- ①所得を増やす。財産を増やす。
- ②適正な申告納税を行う。
- ③滞納しない。
- ④不動産を有効活用する(貸付、売却)。

(地域、民間として)

- ①近所で仕事がない人へ働き先を紹介する。世話をする。
- ②地域で住宅集約の必要性を話し合う。
- ③雇用主は、給料を見直し、必要な生活賃金を支給する。
- ④不動産の有効活用(貸付、売却)を推進する。

- ・地域の特色を活かし、霞ヶ浦湖岸堤の大規模改修をし、釣り大会の会場としてもらってはどうか。